

## ホームスクーラー、豊かな実を結ぶ！

神様にあつてのホームスクーラーたち。多くの実が結ばれつつあります。今、その実が見えても見えなくても、必ず実には結ばれつつあると信じています。今回、そうした中から3人のホームスクーラーたちの近況を紹介させていただきます。

「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。……わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」(ヨハネ 15 : 1.2.5)

### コンピュータープログラミングの世界コンテストで世界一、グランプリ獲得！ 三橋 優希さん (15 歳)

アイルランドで開催されたプログラミングコンテスト世界大会の一つ「Coolest Project 2018」(参加者約2000人、<http://coolestprojects.org/registration-2018/>)で、優希さんが、ゲーム部門のグランプリを獲得しました。プログラマーである父、宏史さんは2年前、胃がんを患い、闘病されることとなり、チア・コンベンション会場やニュースレターを通して、全国の皆さんと祈りを共にし、回復の道を歩まれてきました。優希さんは、「バイブルミュージアムプロジェクト」でのボランティアや、コンベンションでのLITなどで活躍しながら、プログラミング開発にも挑戦中でした。宏史さんは、優希さんの受賞について「主が思いも出会いもアイデアも意欲も与えてくださいました。主が完全にコントロールしておられる感じです。主にご栄光をお返しします。いつもお祈りありがとうございます！」と語っておられました。



世界大会でグランプリ受賞の優希さん (アイルランドにて)

アイルランドから帰国後には、政府系の外郭団体が主催する「SECHACK365」や「未踏ジュニア」というプログラムの審査に通り、それぞれ1年および半年間の開発プロジェクトにも取り組んでいるところです。審査の過程で、学籍など応募に必要な資格についてチアにもご相談があり、やり取りさせていただきました。そのことについて宏史さんからのコメントです。

「稲葉さん・チア事務局の皆さんの具体的なサポートをいただき、祈ることを重ねるうちに、主は私に次のことを語り教えてくださいました。『自分たちでやろうとしなくて大丈夫だよ。これはわたしが与えた機会だ。わたしが責任を持つよ。だから恐れなくて大丈夫。安心なさい。言葉はわた

しに次のことを語り教えてくださいました。『自分たちでやろうとしなくて大丈夫だよ。これはわたしが与えた機会だ。わたしが責任を持つよ。だから恐れなくて大丈夫。安心なさい。言葉はわた

しが与える』。そのようなメッセージを受けました。“結果は主に委ね、ややドキドキが残りながらも、一步踏み出す”という経験をさせていただきました。主の御心のみがなること、その前提のもとで神様に頼ること、その恵みを受け取る幸いを学び直しました。振り返る時に、ただただ神様の恵みに嬉しくなり、感謝ばかりがあふれてきます(^\_^)

今回、私たちがホームスクーリングに取り組む目的と動機、今までを振り返り、現状チェックをする良い機会ともなりました。主が導いてくださったこと、すべて与えられ、霊肉魂いずれにおいても具体的な成長の恵みがあること、具体的な主の祝福の道が開かれてきていること。どこをとってみても主の導きがあり、恵みが満ち溢れていることを家族で確認することができました。本当に感謝です！

そして、主催者・面接官の方から『なぜホームスクーリングするようになったのか？』という問い合わせをいただき、主の恵みを（控えめながら）証する機会を得ることができました。先方は、参加対象の子どもの適性について保証がほしいのだろうと私は推察しました。その点、ホームスクーリングの取り組みのあらゆる点について、堂々と語ることに改めて気が付きました。・「親が責任を持って子どもを育てる」という日本国憲法および各種法律の原理原則・理念に基づき実践していること

- ・ 聖書に基づくがゆえに社会性を身につける点を特に重視していること（隣人を愛する）
- ・ 教科学習面、習い事を通して、能力開発もできていること
- ・ 子ども個々人に合わせた学習ができるため、効率が良いこと。確保できた時間を使って、それぞれの興味分野を掘り下げることができる（優希の場合はプログラミング開発とデザインに多くの時間を割くことができている）
- ・ 時間配分が効率的であるため、年齢の割に自分の興味と適性を理解し、また多くのことができるようになっていること
- ・ 家族での時間を多く確保できるため、情緒が安定していること

チャ・につぼんのお働きが、私たち家族の霊的かつ精神的な支えとなっていることもご紹介することができました。また、信仰やビジョンを共にし、チャーチ&ホームスクーリングの恵みを共有できる全国の兄弟姉妹の皆さんの存在が、具体的な心の支えになっていることも改めて感じています。本当にありがとうございます！また、信仰を共にし、チャーチ&ホームスクーリングの恵みを共有できる兄弟姉妹の皆さんの存在が、具体的な心の支えになっていることも改めて感じています。突然の相談にも関わらず、チャ事務局の皆様には迅速にご対応いただきました。誠にありがとうございました！主のために多くの犠牲を払いつつ、荷を背負ってリードしてくださっていることに心から感謝しています！

優希には、人の思いで進めるのではなく、主に祈り求め、委ねてそのご栄光を見ることを折に触れて伝え、何よりも神様と共に歩む幸いを伝えていきます。信仰において一致しながら、子どもと話ができることは、本当に喜ばしく楽しいことです。ホームスクーリングという、これも恵みの中で神様との関係が培われてきていることに改めて感謝しています」

三橋宏史さんのがんの回復は順調で、約1年休んでいた職場にも11月から復帰されています。10月には宏史さんのお母さんを信仰に導かれた宣教師の娘さんと出会うことを大きな目的に、三橋ファミリーの信仰のルーツであるカリフォルニア州サンノゼを妻の優子さんや3人のホームスクーラーたち、家族全員で訪問。一緒にロサンゼルスや、以前チャ・マガジンやニュースレターでご紹介させていただいたヨセミテ国立公園の1000mあまりの岩壁を真下に見られるグレイスポイントやサンディエゴ等を訪ねられたそうです。宏史さんの快気祝いと、優希さんはじめ子どもたちの修学旅行&小学と中学の卒業旅行ほか、神様とご家族のきずなを強める旅だったそうです。「宣教師の

皆さんがいかなる覚悟をもって日本という地で仕えてきてくださったか、その犠牲の大きさを、今回言葉も文化も違う異国の地に行ったことで改めて感じる事となりました。子どもたちの卒業旅行ともなり、神様の深い恵みを確信しました。前回のチアニュースレターで、サンディエゴ近郊エスコンディードの原野でのエピソードを読みました。“I can do nothing, but God can do everything!!” 何度聞いても心に迫ります。非常に意義深い場所と時であったことに思いをはせながら、雄大な南カリフォルニアの乾いた大地の風景を思い出しました」とのことです。ハレルヤ！

**ウクレレ演奏の高評価を、神奈川県の新聞社が紹介！  
カポンポン慈愛来（ジャイラ）くん（14 歳）**

日頃、白馬セミナーへの参加やコンベンションでの LIT、聖句書道展等で活躍しているカポンポンジャイラ君のウクレレ演奏が、神奈川新聞に「14 歳、ウクレレに夢乗せて横須賀、オーディションで高評価」とのタイトルで掲載されました（2018 年 9 月 9 日）。

横須賀市と大手音楽会社などが開いた、世界に羽ばたく若手アーティストを発掘するオーディションに参加した、ジャイラ君。記事では、3 年前にウクレレを始めた理由として、「父のデロンさん（44）が牧師を務める教会で、いとこの男性（20）が奏でるのを見たこと、ドラムを好きな父デロンさんの影響で幼いころから、ドラムやエレキベースといった楽器に親しんでいたこと」などが記述されました。

また、ホームスクーリングにも触れ、「家庭で学習する『ホームスクール』を選び、ウクレレととことん向き合う。今は毎週日曜日、父の教会で、賛美歌の伴奏を弾いて腕を磨いている。慈愛来さんは『ウクレレを世界に広めたい。力を抜いて聞いてもらい、観客がリラックスした気分になってくれればうれしい』と話している」と、好意的に伝えてくれています。

ちなみに、やはりホームスクーリングで育った兄の頼基君は、イスラエルでの奉仕・リーダー訓練プログラムに参加し活躍中です（ブリッジ・フォー・ピース主催。ホームスクーラー卒の梶山大君と一緒に参加中）。ジャイラ君は、10 月に行われた「ホームスクール・フェスタ」でも、ウクレレを演奏し、神様を賛美しました。「将来はプロになって本場ハワイでも演奏したい」というジャイラ君と、カポンポンさんファミリーへのますますの祝福を皆さんと共に祈っていただきたいと思います。

母、奈央子さんからの追伸です。「11 月 30 日、ジャイラが『The Ukulele contest 4 All』コンテストの U15 の部門で、最優秀賞を受賞しました。ホームスクーリングをして、世に出て行く準備の真っ只中で、こんな風に出て行って大丈夫なのか？と、常に複雑な気持ちがあります。でもまさに、息子たちは堂々と証してます。課題やリスクはたくさんあるとも思いますが、主に感謝し委ねつつ、親として祈り、できる限り関わりつつ、それぞれの子どもたちが導かれた宣教へと送り出していただきたいと思います」



神奈川新聞 9 月 9 日版より

## 囲碁・三段位獲得戦で優勝！お兄さん・お父さん（共に五段）に続く優勝！ 山崎光基君（12歳）、恵大君（14歳）、啓一さん（45歳）

10月11日、山形市で開催された囲碁大会（山形新聞・山形放送主催の「山形県囲碁三段位獲得戦」。優勝者には日本棋院三段の免状が贈られる）で、ホームスクーラーの山崎光基二段（12）が優勝しました。準優勝者は64歳、3位は79歳とベテランが競う大人の大会で最年少の光基君が勝ち切りま



山形新聞 11月13日版より（大きな特集記事の一部です）

した。父啓一さん、兄恵大君に続く、山崎さん家族3人めの優勝者です。

「光基が勝利できたことは、主が少し疲れぎみの私たちに喜びを与えて下さったのだと感謝しています」と母のこずえさんは喜びをチア・にっぼんに伝えてくれました。「光基は、自宅で父と兄がやっていた囲碁を真似て、ただ父と兄が大好きで、ここまで来ました。自宅で兄と楽しく囲碁特訓をして、あとは、ほとんど独学です。おとなしい光基が新聞社の格調高いビルの会場・そして大人の中で、堂々としていました。テレビと新聞社が取材にきましたを受け答えもしっかりしていました。この落ち着きはホームスクーラーならではですね。社会性は大丈夫です！」

山形新聞は、写真入りの記事で以下のように報じました。「山崎二段の兄・恵大さん（14）は16年大会、父・啓一さん（45）は1998年大会でそれぞれ優勝。家族3人目の優勝者で、山崎二段（※チア注・現在、三段）は『プレッシャーはあったけれど、盤面に集中して勝つことができた。うれしい』と笑顔を見せた」（山形新聞 2018年11月13日版）

光基君や恵大君が学籍をおいている小学校・中学校の先生方も、また3男の友生君（10）がいる施設のスタッフの方からも「新聞、TV見たよ！」と声をかけていただき、家族で励まされたとのこと。

母のこずえさんは言います。「すごい先生に弟子入りするわけではなく、ただただ父と兄が好き！この強いきずなに私は泣きました。神様や家族のきずなが深まり、伝道の想いをもって、社会で輝くというホームスクーリングの実が見えて、感謝しつつ気持ちを新たに歩んでいきます。『だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます（マタイ6：33）』との御言葉が示されます。

子どもたちは幼稚園の頃、父の教えで好きになり、その後、町の『子ども囲碁教室』に通う時期を経つつ、基本は、親子で囲碁を楽しんでいます。力試しで大会に出る中で、宮城県の大大会で優勝、また文部科学大臣杯山形県少年少女囲碁大会で優勝、全国大会に2度出場に続いての今回の優勝となりました。3人とも今は、地元の囲碁研究会から声がかかり、月に1度囲碁打ちに行きます。その強い棋士さんも子どもが生まれ、どうやったら子どもを囲碁好きにできるか、我が家に興味をもって話しかけて下さいます。